

## 学校教育における ESD に関連した年間指導計画の研究

## Research on Yearly Teaching Plans for ESD in School Education

後藤田 洋介\*, 河野 晋也\*\*

GOTODA Yosuke\*, KONO Shinya\*\*

\*相愛大学 人間発達学部, \*\*大分大学大学院 教育学研究科

[要約] 本研究は、「ESD カレンダー」をはじめとする、ESD に関連した年間指導計画を収集・整理したものである。これまで学校において ESD 実践を行う際、ESD の関連分野を年間指導計画に位置づけた実践が数多く行われてきた。本稿では、ESD に関連する書籍や論文等を使用して、ESD に関連した年間指導計画を収集し整理をした。その結果、「教科のつながりを付加した年間指導計画」と「ESD に関連する単元指導計画」と、この年間指導計画と単元指導計画の組み合わせの 3 つの分類ができること提案した。

[キーワード] ESD, 年間指導計画, 単元指導計画, ESD カレンダー

## 1. 緒言

Education for Sustainable Development (以下、ESD) は持続可能な社会の担い手を育てる教育として、世界各国で取り組まれている。特に日本国内では 2017 年・2018 年に公示された学習指導要領に「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられており、学校において ESD に取り組んでいくことが求められている<sup>(1)</sup>。

学校における ESD 実践を推進していく一つの手立てとして、年間指導計画と ESD を関連づけた取り組み（以下、ESD に関連した年間指導計画とする）が、様々な学校で取り組まれている。代表的な ESD に関連した年間指導計画として、「ESD カレンダー」がある。「ESD カレンダー」は「教科・領域を越えた、横断的・統合的指導を進めるための年間計画」として 2007 年から江東区立東雲小学校で作成されていた年間指導計画である(手島, 2008)。日本ユネスコ国内委員会が ESD を推進していくために教育委員会や教育センターの研修実施者、学校の管理職を対象にして作成した

「ESD 推進の手引」の中でも、教員の連携を図る目的で「ESD カレンダー」が紹介されている(日本ユネスコ国内委員会, 2021)。

「ESD カレンダー」については、指導時数や単元の目標、学習活動、地域人材や関係機関との連携を示していないことから、総合的な学習の時間の指導計画部分を書き足した「New! ESD カレンダー」に改良がなされていたり(手島, 2017)、福山市立駅家西小学校では各単元をつなげた理由(つながりの理由)を加筆した「ESD 関連カレンダー」(大戸・藤井, 2012)が作成されていたりするなど、ESD に関する年間指導計画は開発と改良が各学校において取り組まれている。

後藤田・河野(2019)はユネスコスクールに登録されている日本国内の小学校の学校ホームページに着目し、「ESD カレンダー」の公開状況を調査している。調査の中で、ESD カレンダーに類似したカリキュラムマップの開発が行われていることを指摘している。

以上のように、ESD に関する年間指導計画は各学校によってアレンジをされながら改良

をされており、これらを調査し整理することによって、日本国内におけるESDに関連した年間指導計画の傾向を探ることとした。

## 2. 研究目的および方法

本研究は日本国内の学校におけるESDに関する年間指導計画を収集・整理し、その分類を提案することを目的とする。

調査には日本国内で発行されているESDやSDGsに関する書籍や学術論文、大学や研究機関が発行する研究紀要を使用することとした。学校における取り組みの調査であるため、各学校が発行している研究紀要の使用が望ましいが、オンライン上で公開しているものは非常に少なく、全体を把握することには不向きであるため、上記の資料を活用することとした。

## 3. ESDに関連する年間指導計画の分類

日本国内で発行されている書籍や学術論文を参照し、ESDに関連した年間指導計画の名

称や開発した学校、紹介している文献を表1にまとめた。「ESDカレンダー」については、複数の書籍や論文等で紹介をされているため、ここでは、開発された江東区立東雲小学校で校長を務めていた手島氏の文献のみを掲載した。

表1ではESDに関連した年間指導計画を「教科のつながりを付加した年間指導計画」と「ESDに関連する単元指導計画」の2つのカテゴリーと、その2つのカテゴリーを併用したカテゴリーに分類した。

「ESDカレンダー」は、手島(2008)によると、学校の教育計画から「国際的な協力」「人権」「多文化理解」「環境」の4つの視点で単元名を洗い出し、教科・領域ごとに単元を配列、各単元を4つの視点で色分けし、関連づけて指導すると効果的と思われる内容どうしを線で結び作成する、としている(手島,2008)。この「ESDカレンダー」を改良する形で、各単元のつながりの理由を加筆したものが、前述した「ESD関連カレンダー」であ

表1. ESDに関連した年間指導計画の一覧

カテゴリー	名称	学校	文献
教科のつながりを付加した年間指導計画	ESDカレンダー	江東区立東雲小学校	手島(2008) 手島(2017) など
	ESD関連カレンダー	福山市立駅家西小学校	大戸・藤井(2012) 勇谷・藤井(2014)
	ESDカレンダー+GLTカレンダー	三重大学教育学部附属中学校	松村・上野ら(2020)
ESDに関連する単元指導計画	ESDプログラムチャート	気仙沼市立面瀬小学校	及川(2011)
教科のつながりを付加した年間指導計画+ESDに関連する単元指導計画	New! ESDカレンダー	江東区立八名川小学校	手島(2017)
	ESDカレンダー+重点単元指導計画	岡崎市立男川小学校	蜂須賀(2016) 蜂須賀(2017)
	SDGs/ESDの年間指導計画+ESDストーリーマップ	大牟田市立吉野小学校	大牟田市SDGs・ESD推進委員会(2021) 安田(2022)

(筆者作成)

る。これらについては、ESD に関連している視点を追加していること、学習するすべての単元を配列しているわけではなく、ESD の視点に関連するものを精査し配列していること、各単元を内容や方法によって結び付けているところに、各学校において従来から作成されている年間指導計画との違いが見られる。

松村・上野ら(2020)は、ESD 研究に関わる先行実践を分析し、総合的な学習の時間の一部でESD に関係する学習活動を紹介している。その中で、「環境領域とSDGsの目標13(気候変動に具体的な対策を)に関わる内容を取り出した」年間指導計画である「GLT カレンダー」<sup>(2)</sup>と「ESD カレンダー」の使用を紹介している。

以上のことから、「ESD カレンダー」と「ESD 関連カレンダー」、「ESD カレンダー+GLT カレンダー」を「教科のつながりを付加した年間指導計画」と分類した。

次に「ESD プログラムチャート」<sup>(3)</sup>については、及川(2011)において「面瀬小学校では、6学年を通じた系統的な学習プログラムを開発し、毎年改善・修正を加えながら、国際的かつ総合的な『面瀬のESDカリキュラム』として練り上げてきた」として、「『未来都市プロジェクト』のプログラムチャート」が紹介されている(及川,2011)。「ESD プログラムチャート」では、「ESD カレンダー」と同じく横軸に実施予定月を記載しているが、縦軸には各教科等を並べずに、総合的な学習の時間の指導内容やその順序、教科の関連が記載されていた(及川,2011)。「ESD カレンダー」のように単元・領域の記述よりも、総合的な学習の時間で取り組む活動を重点的に記載しているため、本稿では「ESD に関連する単元指導計画」のカテゴリーとした。

「教科のつながりを付加した年間指導計画」と「ESD に関連する単元指導計画」を組み合わせた取り組みも見られた。

「New!ESD カレンダー」については前述の手島(2017)の通り、「ESD カレンダー」に総合的な学習の時間の指導計画部分を書き足した年間指導計画である。

蜂須賀(2016)は、「ESD カレンダー」と「重点単元指導計画」を組み合わせた取り組みを紹介している。「重点単元指導計画」は、「ESD カレンダーで記されていない、ESD 単元の指導時数や学習目標、学習内容や学習活動を具体的に記したものである(蜂須賀,2016)。

「SDGs/ESDの年間指導計画」は「ESDのメインフィールドとなる生活科・総合的な学習の時間における各学校で設定しているテーマ・領域から、各教科の学習内容を整理し、内容面、方法面からのつながりを『強化』『付加』『補完』の視点から明らかにし、可視化していく。加えて、学習内容とSDGsとの関連を意識できるように関連するSDGsを位置付け」た年間指導計画である(大牟田市SDGs・ESD推進委員会,2021)。「ESDストーリーマップ」は「ESD年間計画をさらに具体化し、見通しを持って指導にあたることができるように、単元ごとに」作成された単元の指導計画である(大牟田市SDGs・ESD推進委員会,2021)。また、「ESDストーリーマップ」は「子供たちが課題を自分事として捉え、主体的に課題解決活動に取り組むことができるように、子供たちの意識の流れを大切にしながら、活動における気付きや質の高まりを考慮して活動を構成し」、「学習のまとまりであるステージを複数設定し、ストーリー性のある単元の学びの実現を目指して」作成されている(大牟田市SDGs・ESD推進委員会,2021)。

以上から、「教科のつながりを付加した年間指導計画」と「ESD に関連する単元指導計画」を組み合わせて運用していることが分かるため、2つのカテゴリーを合わせたカテゴリーとして表1に記した。

#### 4. 考察

ここまで、ESD に関連した年間指導計画について、各種文献で紹介されているものを整理してきた。この整理の結果から考察を行う。

ESD に関連した年間指導計画が、複数の学校で開発・運用・改良が行われ、単元指導計画と併用していることについて考察を行う。例えば、手島 (2008) の「ESD カレンダー」は ESD を推進する様々な手引書などで紹介され、各学校でアレンジがなされてきた。例えば、後藤・川端 (2019) はキャリア教育と ESD を結びつけ、手島 (2008) が挙げている 4 つの視点に代わり、「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「人間関係・社会形成能力」「キャリアプランニング能力」を設定して「ESD カレンダー」を作成している。また、「ESD 関連カレンダー」のように、手島 (2008) の「ESD カレンダー」を学校の状況に合わせて修正して提案している例もみられる(大戸・藤井, 2012)。その一方で、手島 (2017) は「ESD カレンダー」に不足していた要素を総合的な学習の時間の単元指導計画に見出し、並列して活用しているが、それと同様に、蜂須賀 (2016) も総合的な学習の時間の単元計画に限らない、「重点単元指導計画」を並べて活用している。また、「ESD ストーリーマップ」も「SDGs/ESD の年間指導計画」をさらに具体的にしたもので単元の指導計画の役割を果たしていた (大牟田市 SDGs・ESD 推進委員会, 2021)。

このように、ある一つの年間指導計画がモデルとなり各学校で作成・運用・改良されているのではなく、各学校においてその学校の教育目標や教育方針、教員間の連携などをより充実できるよう、各学校で工夫されていることが分かる。「ESD 関連カレンダー」ではつながりの理由を追加しており、また、その他の単元指導計画を並列で使用するものについては、活動だけでなく、目標や連携先を追加することもあることから、これらの年間指導

計画や単元指導計画が、教員間の連携を意図し、その連携を促進するために活用されていることが推察できる。

以上のように ESD に関連する年間指導計画について検討をしてきたが、本研究の課題について考える。まず、研究の目的・方法でも述べたとおり、書籍・学術論文等から考えていることについての問題点である。後藤田・河野 (2019) では「特色ある教育活動等に ESD カレンダーの作成について記載をしているものの、学校ホームページで公開していない学校」もあると報告している。本稿では書籍や学術論文等を元に調査を行っているが、ESD においては、各省庁や研究機関、教育委員会などが作成している学校の取組を紹介したパンフレットが数多くあることや、大分県教育委員会の「教育課程全体で取り組む ESD (単元計画と ESD カレンダー例の公開)」のようにインターネット上で単元計画と ESD カレンダーの例を公開している事例もある (大分県教育委員会, 2020)。また、各学校で作成されている研究紀要などにも ESD に関連した年間指導計画を掲載していることが予想されるだろう。日本国内における ESD に関連した年間指導計画について、より詳細にその関係性を明らかにするためには、上記のような状況を踏まえて、調査をしていく必要があるだろう。

また、本研究では ESD に関連した年間指導計画を収集し、整理を行うことを中心に検討したため、各学校で作成されている年間指導計画における教科のつながりの違いや ESD の視点の違い、取り出している単元の違いについて言及することができなかった。加えて、「ESD に関連した単元指導計画」については、各学校の ESD 実践の特色を表しているものであるため、より詳細に記載内容や記載方法を分析する必要があると考える。

さらに、本稿では取り扱わなかったが学年レベルの年間指導計画だけでなく、学校レベルの ESD に関連した年間指導計画の事例も見

られる。例えば大戸・藤井（2012）では、教科等を中心としたカリキュラムとESDのカリキュラムが共存することから、その2つのカリキュラムを表す方法として、「ESDカリキュラムの3次元モデル」を提案している。この「ESDカリキュラムの3次元モデル」では、教科・領域等・学年・ESDの領域の3つの軸で表されている（大戸・藤井, 2012）。このような学校全体で策定されている年間指導計画についても、その分類や内容の分析が必要となるだろう。

## 5. まとめと展望

本稿ではESDに関連した年間指導計画について日本国内で発行されている書籍や論文等を手がかりにして、その整理とカテゴリーを検討した。その結果、ESDに関連した年間指導計画には「教科のつながりを付加した年間指導計画」と「ESDに関連する単元指導計画」の分類を提案し、その2つを組み合わせた年間指導計画が運用されていることを紹介した。

考察でも述べたとおり、日本国内で作成されているESDに関連した年間指導計画をすべて収集・整理できていないため、今後、調査の範囲を広げるほか、学校においてどのように活用され、活用することによってどのような効果や課題が見られるのかについてもより詳細な分析をしていきたい。加えて、本稿では日本国内における実践に着目をして調査・分類を進めてきているが、小泉（2022）が「日本で行われてきたESDは、日本独自のESDであると指摘できる」と述べているように、本稿で検討している内容も日本独自のESDの形態であるか、諸外国のESDのカリキュラムの調査等を視野に入れて検討をしていきたい。

## 注

- (1) 学習指導要領におけるESD関連の記述、文部科学省、<https://www.mext.go.jp/>

unesco/004/1339973.htm（2025年2月10日確認）

- (2) 松村・上野ら（2020）ではESD研究の先行実践をもとに、総合的な学習の時間の一部としてESDに関係する学習活動を「STEP」としてカリキュラム開発を行っている。「STEP」の第1期では気候変動教育の理念を取り入れ、学習過程として「GLT (Global and Local Thinking)（「課題の把握）」」「GLP (Global and Local Project)（「問題追究」, 「考察・まとめ」, 狭義の「発展」）」「GLA (Global and Local Action)（広義の「発展」）」を設定している（松村・上野ら, 2020）。
- (3) 及川（2011）では「プログラムチャート」と記載されているが、新海（2009）において、「教員たちが個別に取り組んでいる地域学習や環境学習のプログラムを全学年分洗い出し、教科と連携させ、学校全体で全学年年間カリキュラム（ESDプログラムチャート）を構築した。」とあるため、本稿では「ESDプログラムチャート」として記載した。

## 謝辞

本研究はJSPS科研費JP21K02479の助成を受けたものである。

## 引用文献

- 後藤幸洋・川端愛子（2019）「高等学校福祉科におけるESDとキャリア教育に関する一考察—小規模総合学科における実践を通して—」『北海道文教大学研究紀要』43, 125-136.
- 後藤田洋介・河野晋也（2019）「ESDカレンダーに関する研究—学校ホームページでの公開状況を手がかりにして—」『日本ESD学会 第3回近畿地方研究会発表要旨集』10.
- 蜂須賀渉（2016）「ESDの視点に立つ教科学習の展開—小学3年算数「時間と長さ」の実

- 践事例より一」『岡崎女子大学・岡崎女子短期大学 研究紀要』49, 1-9.
- 蜂須賀渉 (2017) 「ESD の視点に立つ算数学習の展開ー地域の公立小学校での実践研究を通してー」『地域協働研究』3, 77-87.
- 小泉淳 (2022) 「持続可能な開発のための教育 (ESD) のカリキュラム開発に向けた一考察ー学習対象課題概念の抽出ー」『上越社会研究』37, 13-32.
- 松村謙一, 上野雄司, 松本裕一, 谷和音, 新田貴士 (2020) 「SDGs を中核にした中学校におけるカリキュラム開発の実践的研究」『三重大学教育学部研究紀要』, 71, 407-422.
- 日本ユネスコ国内委員会 (2021) 「持続可能な開発のための教育 (ESD) の手引」, [https://www.mext.go.jp/content/20210528-mxt\\_koktougou01-100014715\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210528-mxt_koktougou01-100014715_1.pdf) (2025 年 2 月 10 日確認)
- 大分県教育委員会 (2020) 「教育課程全体で取り組む ESD (単元計画と ESD カレンダー例の公開)」, <https://www.pref.oita.jp/site/kyoiku/2020-esd.html> (2025 年 2 月 10 日確認)
- 大牟田市 SDGs・ESD 推進委員会 (2021) 「学校の取組 (持続可能な社会の創り手を育む学校経営)」及川幸彦 [編著] 『理論と実践でわかる! SDGs/ESDー持続可能な社会を目指すユネスコスクールの取組』明治図書, 53-62.
- 大戸由紀子・藤井浩樹 (2012) 「ESD を始める」藤井浩樹・川田力 [監修] 広島県福山市立駅家西小学校 [編] 『未来をひらく ESD (持続可能な開発のための教育) の授業づくりー小学生のためのカリキュラムをつくるー』ミネルヴァ書房, 2-14.
- 及川幸彦 (2011) 「学校教育における ESD の推進とその展開事例ー気仙沼の学校教育における多様な主体の参画と協働による豊かな学びの創造ー」『環境研究』163, 68-78.
- 新海洋子 (2009) 「「地域の自然と人びとに支えられる学び」を全市に広げる (気仙沼市)」, 持続可能な開発のための教育の 10 年推進会議 [編] 『わかる! ESD テキストブック 2 実践編 希望への学びあいーなにを、どう、はじめるか』28-39.
- 手島利夫 (2008) 「東雲、夢の学校」多田孝志・手島利夫・石田好広 [著] 『日本標準ブックレット No.9 未来をつくる教育 ESD のすすめー持続可能な未来を構築するためにー』日本標準, 20-40.
- 手島利夫 (2017) 『学校発・ESD の学び』教育出版.
- 安田昌則 (2022) 「ホールシティによるユネスコスクール・ESD/SDGs の推進」『創価大学教育学論集』74, 257-270.
- 勇谷美奈子・藤井浩樹 (2014) 「総合的な学習の時間と教科をつなぐ ESD の実践ーESD 関連カレンダーを活用してー」『日本教科教育学会誌』36 (4), 111-114.